NIE実践報告

1．タイトル：新聞の気象情報を活用して、天気の変化を予想しよう

2．学校名

えびの市立加久藤小学校

3．実践者名（代表者名）

的場輝行

4．学年

第５学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

理科　２４名

6．単元（本時の学習課題）名

雲と天気の変化

7．目標(狙い)

新聞の気象情報を活用して天気の変化を調べることを通して、天気はおよそ西から東へ変化していくという規則性をとらえるとともに、天気予報以外の気象情報についても積極的に収集しようとする意欲を高める。

8．評価の視点

気象情報をまとめた結果から、天気の変化には規則性があると考え、天気はおよそ西から東へ変化していくということを理解することができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「雲と天気の変化」（９時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①新聞各社の天気欄から予想図や衛星画像を切り抜いて日付順に並べた資料を見て、天気の移り変わりについて話し合う。
②話合いの結果から気付いたことを発表する。
③気象衛星の雲画像を基に、次の日の各地の天気を予想する。
④気象情報に関連する新聞記事を探し、気付いたことを発表する。
⑤本時のまとめをする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

○　天気図を学ぶことで、自分で天気を予想することができるようになったのでよかった。
○　雲画像を使うことで、台風や雲の動きを分かりやすく学ぶことができた。新聞には風向予測なども載っていてとても便利だと思った。

12．成果と課題

○　教科書に掲載されている資料は自分たちの住む地域の実情とはかけ離れていることが多いが、新聞は児童にとって身近な情報を収集することができるため、より興味・関心を高めることができた。
○　新聞を開くということは、新しい情報を自分の中に取り入れることであり、そのことが「面白そう」「なぜ」という知的好奇心を刺激することにつながる。実践を通して、児童の「知りたい」「学びたい」という意欲を高めることができたと感じている。